落虫穐

夕日はうつろふ露も秋の野に
涼しくもまれてつ松むしの
なく露のいまさらきえて秋風よ
しらくなりゆく野への?むすひ

籬虫吟

老しれもひえぬる籬のしたに
露ふかみのこる野へ あはれさ
わかふるきむしのこゑの露霜の
秋のよとおもひそめて

寄衣恋

かゝれとしたのめし物を衣
うへのみなるに涙ともすか
むし屋して思ふやうらみ
うすき衣乃間のなかに と

実條